

ふう けい き こう  
**風景紀行**  
 日本三大山城  
 いわむらじょう  
**岩村城**  
 23  
 東濃森林管理署  
 (各署の景勝地等を紹介)

**女城主の里 恵那市岩村町**

岩村城は、鎌倉時代(一一八五年)に築城され、大和の高取城(奈良県)、備中の松山城(岡山県)と並ぶ日本三大山城の一つに数えられ、戦国の山城遺構が



石畳の道が続く登山坂

良く残っているということで日本百名城にも選定された名城です。城は江戸諸藩の府城の中でも最も高い所(標高七二二メートル)に築かれ、高低差一八〇メートルの天嶮の地形を巧みに利用した要害堅固な山城で、霧の湧き易い気象までも城造りに活かされており、別名「霧ヶ城」ともよばれています。

この城が名城と言われる由縁は、単にその規模と大きさだけでなく、その永い歴史に由来しています。一一八五年、源頼朝の重臣「加藤景廉(かとうかげかど)」がこの地の地頭に補せられ創築されてから、鎌倉・室町の三〇〇年間、戦国の一〇〇年間、更に江戸期の三〇〇年間に互り城と城主が連綿と続き、明治に至り

廃城令で廃城されるまで、存続していたからです。

特に地元の銘酒の名にもなっている有名な「女城主」は、戦国動乱の時代に岩村城の攻防の中心人物であった遠山氏最後の城主、景任(かげとう)夫人のことで、織田信長の叔母にあたります。夫君亡き後、城主として武田方の武将秋山信友と交戦、和睦の後、結婚、そして信長側による処刑と波乱の人生を送ったとされています。現在は石垣が残るだけです、その城址からは国選定の重要伝統的建造物群保存地区「岩村本通り」を見ることができ往時を偲ぶことができます。

現在、恵那市岩村町と東濃森林管理署とで「いわむら郷土の森」の協定を結び、城址をとりまく貴重な天然林を守りながら環境教育や観光客の歴史散策等の場として利用していくこととしています。恵那市岩村町は懐かしき時代に出会うことのできる里です。



歴史を感じる苔むした石垣

**【アクセス】**

**自動車**

中央自動車道 恵那ICから国道二五七号線を岩村方面へ約二五分

**電車**

中央本線恵那駅から明知鉄道乗車岩村駅まで約三〇分、駅から岩村城址までは約二キロメートル、徒歩五〇分、車で七分